

平成9年4月30日現在

# 猪子 INOKO

世帯数 191戸  
人口 595人

## 字名の由来

大昔、武内宿禰すくねの死後、土地の人々はその魂まつを祀って猪子大神として崇敬していました。その頃、土地の林の中に老いた白い猪いのししが三頭すんでおり、土俗の神のお使いの動物と言われていました。後に和泉忠衡ひでひら（三郎と称し、藤原秀衡の三男）が猪子大神を尊信し、この話を聞いて猪の子三頭を献上しました。そのためいつしかこの土地を猪子と呼ぶようになったと伝えられています（藤原秀衡は奥州の豪族です）。『猪子の歴史』より

## 春祭り（夜空を焦がす火祭り）

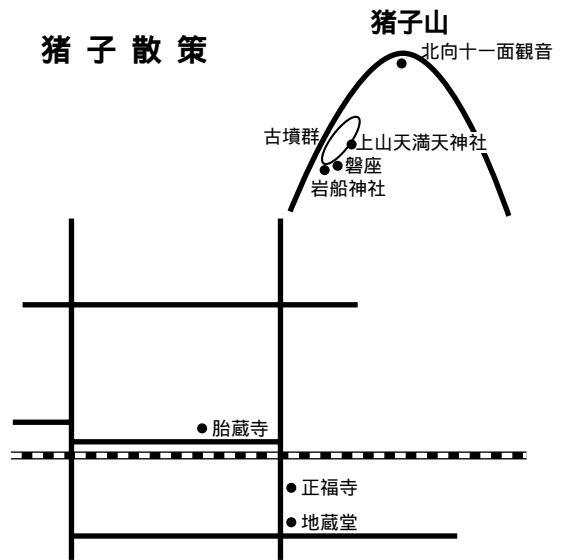
毎年春祭りの宵宮よみやの夜に行われる行事です。各家に配られた松明たいまつ（長さ約2メートル太さ15センチ程度のもの）を持って山の下より火をつけて登ります。

山の中腹では「山上り」という若者3～4名により、

うえやまてんまんてんじんじや

上山天満天神社の中から「山」や「上山」等のいずれかの文字に火をつけ夜空にあかあかと浮かびあがらせます。そして松明を持って山を登った行列は、本殿前に集まり参拝者が待つうち、縦、横、高さそれぞれ4メートル程度に作られた大松明に、神官の祝詞奏上のりとそうじょうと同時に点火され、氏子中のたたく祭囃子うじこ じゆう まつり ばやしとともに火の手が上がります。炎の先端は約10メートルの火柱となり祭りは最高潮に盛り上がるのです。

## 猪子散策



祭囃子をたたく氏子



春祭り(宵宮)

平成9年4月30日現在

# 日清紡社宅 NISSINBO SHATAKU

世帯数 14戸  
人口 45人

日清紡は今年（平成9年 1997）創立90周年を迎えました。能登川工場も昭和19年（1943）に前身の湖東紡績から引き継いで50年余りがたっています。

日清紡社宅がいつ頃から能登川町の一つの行政区として参加させていただいているのかは定かではありませんが、長年にわたりたいへん数多くの従業員および家族が町の皆様のお世話になってまいりました。一時は1000名を超えていた従業員数も現在は200名以下とな

り、また近隣に自宅を建てて移った世帯もたくさんあって、社宅の戸数はだいぶ減りました。現在では町の中でも最も世帯数の少ない区となっています。そのため、町民運動会等では選手集めに四苦八苦していますが、毎年そここの成績を残しており、これからも少数区ならではのチームワークのよさを発揮して、頑張っていきたいと思っています。



日清紡社宅の家並み

平成9年4月30日現在

# 林 HAYASHI

世帯数 90戸  
人口 293人

我が行政区「林」での「汗かき地蔵」の物語です。  
現在、我が「林」の字内の片隅にお地蔵さんまつが祀られています。

このお地蔵さんは別名、「汗かき地蔵」と呼ばれています。しっとりと汗をかかれたときは、地震のような天地の異変など、何か悪いことが起こるといまでも伝えられています。

幼い頃、汗をかいておられるお地蔵さんを見たことがあります。悪いことが起こったかどうかは定かではありません。

でもこのお地蔵さん、一回引っ越しをしておられ、元々は現在のお宮さん「天神社」の所に祀られていました。どのような事情によって、現在の所に祀られたのかはわかりません。また、お宮さんは(いま新しくできたナスタウン林の北側の「三の宮」という地名)の所に祀られていたということです。

以上の物語はご近所のお年寄りに聞いたお話です。とにかく字では大事にされているお地蔵さんです。



現在のお宮さん「天神社」



汗かき地蔵さんの祠(まつ)



汗かき地蔵さん